

白山ふるさと文学賞

第八回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生5・6年の部 優秀賞

母への思い

朝日小学校六年

北田きただ

結生ゆうせい

私のお母さんは、仕事面ではオレンジ色のガーベラに似ている、家庭面ではナズナに似ています。

まず、仕事面でオレンジ色のガーベラに似ていると思ったのは、この花の花言葉が「我慢強さ」だからです。お母さんは仕事で嫌なことがあっても、それに耐えて仕事を続けています。その姿とオレンジ色のガーベラの花言葉に共通点を感じました。でも、遅くまで仕事をしていると、お母さんもすごく疲れてしまうので、切りのいいところでやめてもいいのになと思います。

次に、家庭面でナズナに似ていると思ったのは、ナズナの花言葉が「あなたに私の全てを捧げます」だからです。お母さんはいつも家族のことを一番に考えて行動しています。このこととナズナの花言葉に共通点を感じました。お母さんは一週間に一、二日しかない休日にも仕事に行ったり、家で家事をしたりしていて、私のように座って休む時間は多くありません。だから、少しでも休む時間があると体を横にしています。そんな時に私は、

「お母さん！お母さん！」

と言ってしまう。そのことに私はいつも後悔しています。

私はお母さんの出勤日に昼食のおにぎりを作ったことがあります。私は、お母さんのおにぎりを袋に入れて、そこに手紙を添えました。お母さんに見つからないように。そこには、

「いつもわがままでごめんね。お仕事ががんばって。」

と書きました。その夜、お母さんは昼食時に手紙を読んでくれたと話してくれました。お母さんから手紙での返事はなかったけれど、お母さんが喜んでくれたことが分かったので、私はお母さんと心が通じ合ったみたいで心が温かくなりました。

この出来事を通して、お母さんはいつも私のことを陰で見守ってくれたり、私のことで喜んだりしてくれていることはすごく幸せなことだと感じることができました。

私はお母さんに

「マッサージして。」

と頼まれてマッサージをすることがあります。お母さんの肩は固くて、肩をもみ終わった時には自分の手が痛くなってしまうこともあります。きつと仕事をがんばってなったものだと思うので、時々体が心配になります。さらに、いつも辛い時でも笑ってくれるお母さんを見ると余計に心配になってしまうこともあります。

お母さんはいつも「魔法の言葉」で暗くなった気持ちを晴らしてくれます。その魔法の言葉は、

「気持ちいいわ。ありがとう」

です。私がマッサージをしていると必ず言ってくれるこの言葉がいつも私の気持ちを明るくしてくれています。

お母さんはそのような魔法の言葉を、何百個、何千個ともっています。魔法の言葉博士といってもおかしくありません。お母さんの魔法の言葉は、気持ちを明るくさせてくれるだけでなく、パワーも満タンにしてくれる言葉です。

いつかお母さんが退職した時には、今よりもゆっくりと休める時間が増えていくと思います。私は、お母さんのそんな生活を支えられるような自分になれたらいいなと思います。お母さんが退職するまでにはすごく長い時間があります。それまでずっと今のような忙しい生活を続けさせるのは嫌なので、洗濯や食器洗い、そうじなどできることは手伝っていったらと思います。それでお母さんの忙しさが少しでも軽くなるなら幸いです。

私のお母さんは仕事ができ家事もできるかつこいいお母さんです。これからはお母さんにちゃんとありがとうと言いたいです。

私にとって、お母さんはすごく大切な存在となっています。